

平成30年

消防統計

火災統計

救急統計

救助統計

大崎地域広域行政事務組合
消防本部

目 次

第1章 火災統計

1	大崎管内における火災概要	1
	出火件数	1
	火災種別ごとの出火件数	1
	月別の出火件数	2
2	死傷者の発生状況	2
3	損害額・出火率	3
	損害額	3
	出火率	3
4	出火原因	4

第2章 救急統計

1	大崎管内における救急概要	5
	救急出動件数	5
	過去10年間の救急出動件数の推移	6
2	事故種別出動件数及び搬送人員の状況	6
3	救急隊別出動状況	6
4	市町別出動状況	7
5	傷病程度別、年齢別搬送人員状況	8
6	月別救急出動状況	9
7	収容先別搬送人員状況	10
8	ドクターヘリ要請件数状況	10
9	救急隊員の行った救急処置の状況	11
10	PA連携出動状況	12

第3章 応急手当講習会等の概要

1	講習会の開催状況	13
2	性別・年齢別受講者の状況	14
3	講習会開催の推移	15
4	講習会の効果	16

第4章 救助統計

1	大崎管内における救助概要	17
	救助出動件数	17
	過去5年間における救助出動件数	17
	救助事案発生場所	17

第1章 火災統計

1 大崎管内における火災概要

出火件数

平成30年中における総出火件数は70件で前年より4件増加し、約5.2日に1件の割合で発生したことになります。

また、市町別の出火件数は、大崎市43件（61.5%）、色麻町4件（5.7%）、加美町11件（15.7%）、涌谷町8件（11.4%）、美里町4件（5.7%）となっています。（表1,2）

表1 市町別火災件数

	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	計
平成30年	43	4	11	8	4	70
平成29年	35	4	10	10	7	66
前年比	8	0	1	-2	-3	4

表2 市町別火災総括表

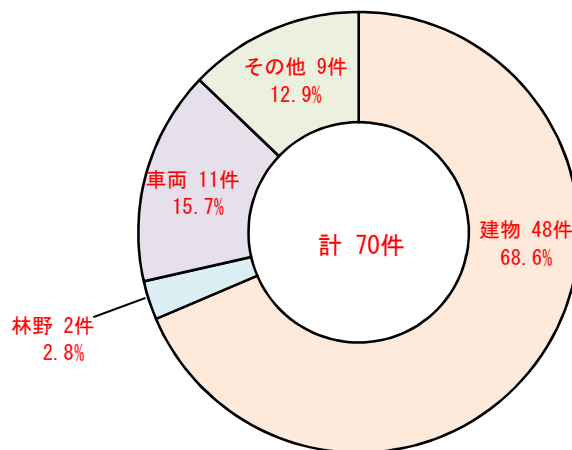
	火災件数					焼損棟数	り災		死者	負傷者	世帯数	人口
	合計	建物	林野	車両	その他		世帯	人員				
大崎市	43	29	1	7	6	49	28	72	2	6	51,350	130,955
色麻町	4	3	0	1	0	6	4	16	0	1	2,079	6,892
加美町	11	8	1	2	0	13	9	20	0	3	8,131	23,377
涌谷町	8	5	0	1	2	15	9	37	0	1	6,073	16,285
美里町	4	3	0	0	1	7	3	8	0	0	9,106	24,597
大崎圏全体	70	48	2	11	9	90	53	153	2	11	76,739	202,106

※世帯数・人口は平成30年12月末現在（宮城県住民基本台帳より）

火災種別ごとの出火件数

火災種別ごとの出火件数は、建物火災が48件（68.6%）で前年より11件増加、林野火災が2件（2.8%）で2件増加、車両火災が11件（15.7%）で1件減少、その他火災が9件（12.9%）で8件減少となっています。（図1）

図1 火災発生状況

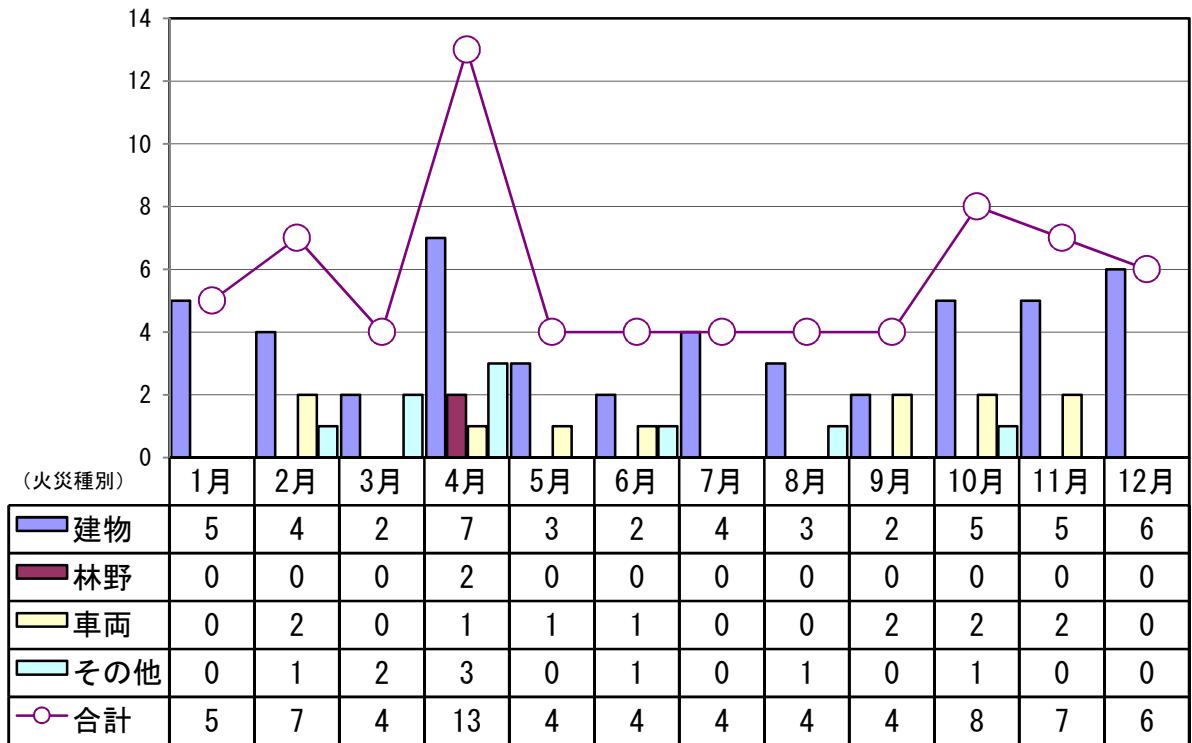


建物焼損棟数内訳	
全焼	40棟
半焼	6棟
部分焼	30棟
ぼや	14棟
合計	90棟

月別の出火件数

月別の出火件数は、4月に13件の火災が発生し全体の18.6%を占め、うち建物火災が7件発生しました。（図2）

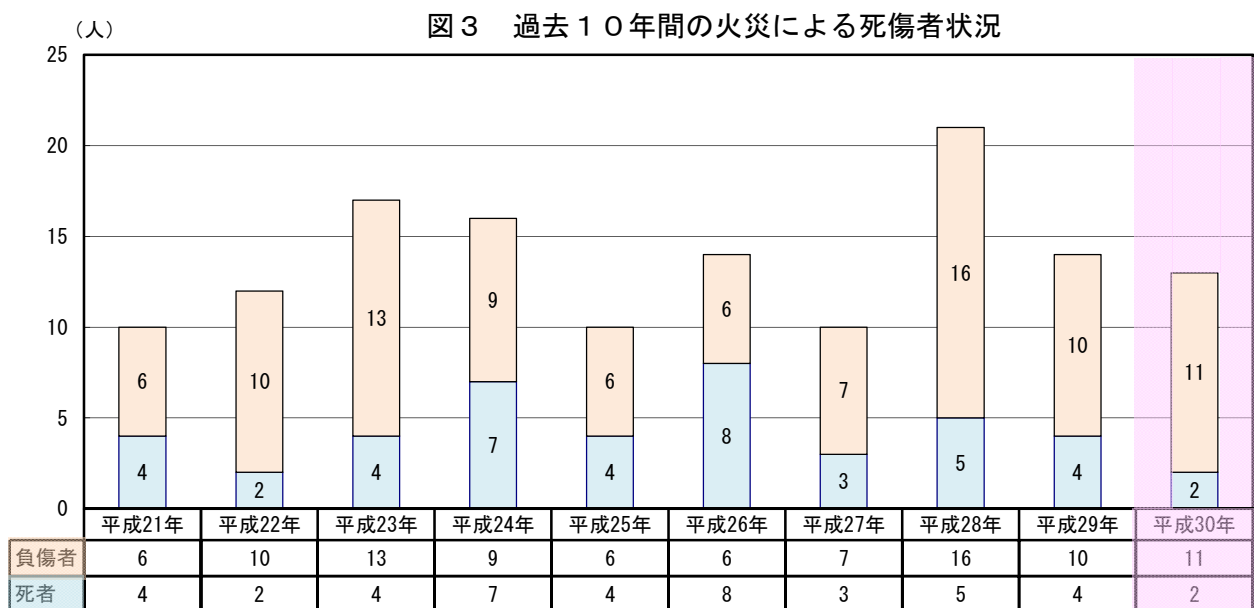
図2 月別火災発生状況



2 死傷者の発生状況

火災による死者数は2人で、前年より2人減少しています。火災による死者の火災種別では、建物火災が2人となっています。

火災による負傷者数は11人で、前年より1人増加しています。火災による負傷者の火災種別では、建物火災が9人、車両火災が1人、その他火災が1人となっています。（図3）



3 損害額・出火率

損害額

平成30年中における火災による損害額は3億5,130万円で、前年と比較すると、1億5,442万9千円増加しました。

火災種別ごとの損害額は、建物火災が3億4,333万5千円、林野火災が6万7千円、車両火災が730万6千円、その他火災が59万2千円となっています。

火災1件当たりの損害額は501万9千円で、一世帯当たりの損害額は4,578円、住民一人当たりでは1,738円となっています。（表3・図4）

出火率

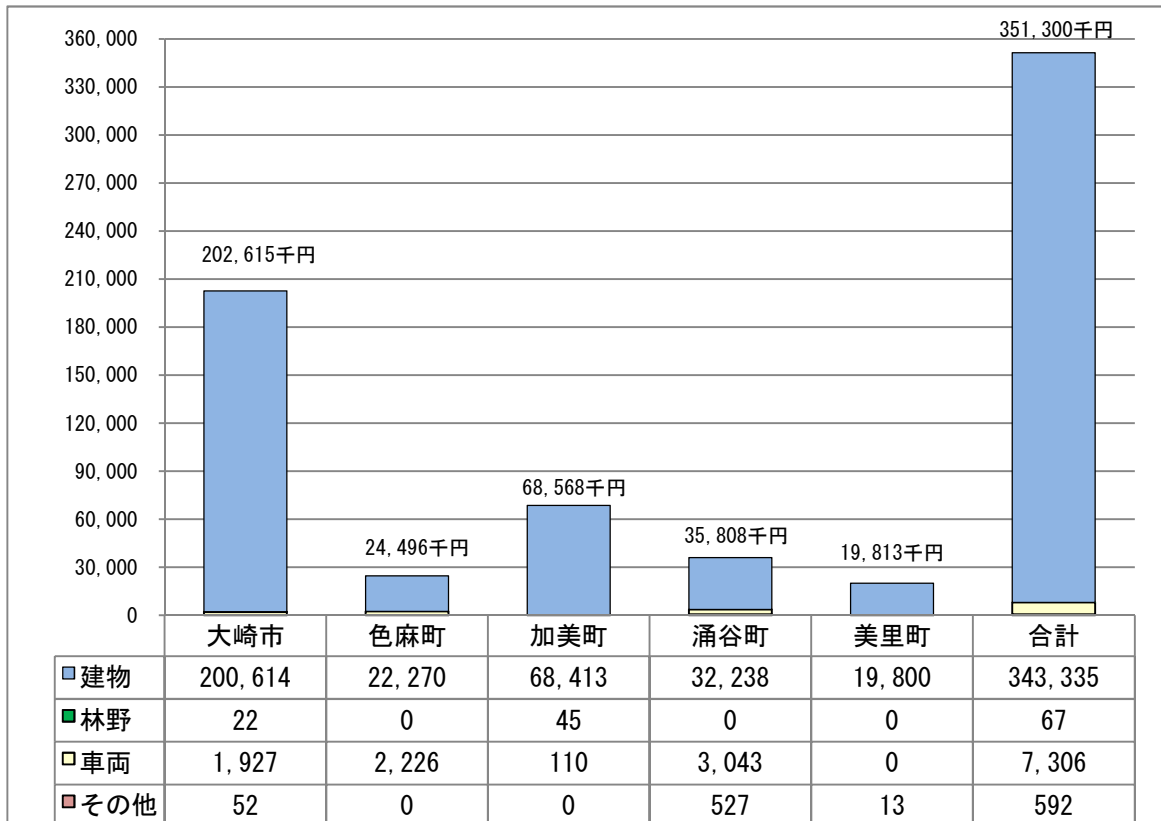
出火率をみると、大崎圏全体は3.46であり、前年と比較すると0.23ポイント増加しています。

市町別にみると、色麻町が5.80ポイントと最も高く、次いで涌谷町が4.91ポイント、加美町が4.71ポイント、大崎市が3.28ポイント、美里町が1.63ポイントとなっています。（表3）

表3 市町別出火率及び損害額

	一万人 当り 出火率	損 害 額				焼 損 面 積		
		総額 (千円)	1件当り (千円)	一世帯当り (円)	一人当り (円)	建物 面積 (㎡)	1件当り (㎡)	林野 面積 (a)
大崎市	3.28	202,615	4,712	3,946	1,547	3,655	126.0	70
色麻町	5.80	24,496	6,124	11,783	3,554	753	251.0	0
加美町	4.71	68,568	6,233	8,433	2,933	1,046	130.8	6
涌谷町	4.91	35,808	4,476	5,896	2,199	1,372	274.4	0
美里町	1.63	19,813	4,953	2,176	806	241	80.3	0
大崎圏全体	3.46	351,300	5,019	4,578	1,738	7,067	147.2	76

図4 市町別損害状況



4 出火原因

総出火件数の70件を原因別にみると、「放火の疑い」9件（12.9%）、「たばこ」8件（11.4%）「ストーブ」7件（10%）、「排気管」5件（7.1%）、「こんろ」及び「火入れ」各4件（5.7%）の順となっています。（表4）

表4 出火原因

原因	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年
たばこ	11	8	13	5	4	6	3	5	6	8
こんろ	4	7	4	3	3		2	6	3	4
ストーブ	2	6	10	2	3	3	6	6	1	7
こたつ				1						
煙突・煙道	4	3	1	3	2	1	2		1	2
排気管	1		2	2	2	2		4	4	5
電気機器	1	3	5	5	2	1	1	1	1	3
電灯等配線	4	4	2	5	1	3	7	3	4	2
配線器具	1	1	3	1	4	2		3	1	2
火遊び	2	3	1	1	2	3			2	1
たき火	8	7	5	5	12	4	4	1		3
溶接・切断機		2	3	2	2	1	1	1		
灯火	2		2	1	2	1	1	1	1	2
衝突の火花	2	1		1		1	1			1
取灰	2			1			2		1	1
火入れ	8	3	8	5	12	10	10	4	2	4
かまど	1							1		
風呂かまど	1	2	2	1	3	3	1			
炉				1						
焼却炉	1			1	2			1		
ボイラー		2	1		1					
電気装置			1	2	2	1				
内燃機関	1								1	1
マッチ・ライター	3	1	1				2	2	3	
放火	5	1	2	4	4	5	6	11	6	1
放火の疑い	7	2	3	6	2	7	4	5	7	9
その他	22	22	18	19	16	15	10	10	14	9
不明	21	21	23	11	15	14	11	20	8	5
合計	114	99	110	88	96	83	74	85	66	70

第2章 救急統計

1 大崎管内における救急概要

救急出動件数

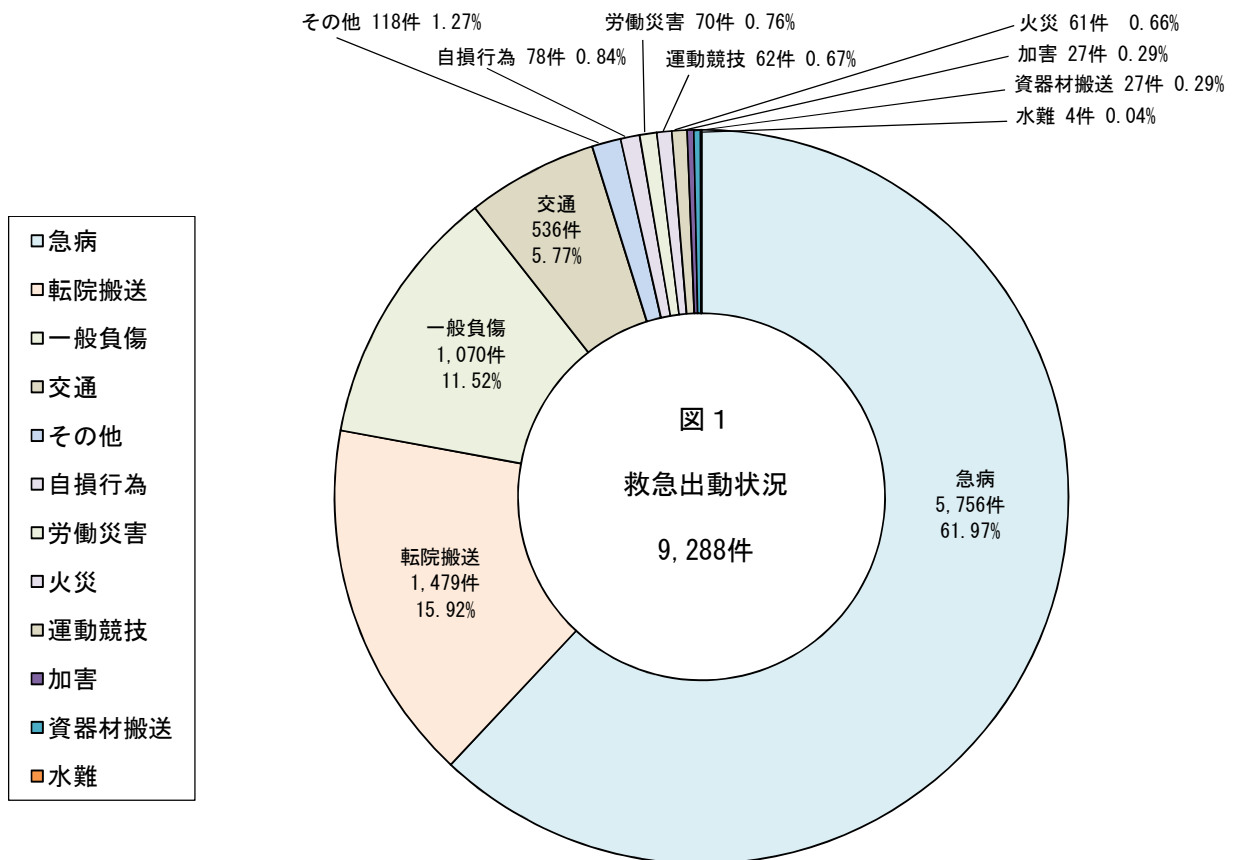
平成30年中における救急出動件数は、9,288件（前年比220件減）で搬送人員が8,647人（前年比236人減）となりました。これは一日平均で25件（約58分に1件）の割合で救急隊が出動し、管内の約23人に1人が救急隊により搬送されたこととなります。（表1・図1）

表1 平成30年救急出動状況

区分	年別比較	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
													転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他
出動件数	平成30年	9,288	61	0	4	536	70	62	1,070	27	78	5,756	1,479	0	27	118
	平成29年	9,508	53	0	3	598	79	59	1,015	28	84	5,884	1,554	0	18	133
	比較	-220	8	0	1	-62	-9	3	55	-1	-6	-128	-75	0	9	-15
不搬送件数	平成30年	731	55	0	3	49	1	1	62	8	24	388	1	0	25	114
	平成29年	743	44	0	1	54	2	0	88	7	26	374	3	0	18	126
	比較	-12	11	0	2	-5	-1	1	-26	1	-2	14	-2	0	7	-12
搬送人員	平成30年	8,647	9	0	1	558	69	63	1,018	21	53	5,371	1,479			5
	平成29年	8,883	11	0	2	639	79	61	934	21	58	5,518	1,551			9
	比較	-236	-2	0	-1	-81	-10	2	84	0	-5	-147	-72			-4

平成30年中における大崎圏の出動割合

月平均	774件	1日平均	25件	58分に1件
管内人口割合	23人に1人を搬送	管内世帯割合	9世帯に1人を搬送	

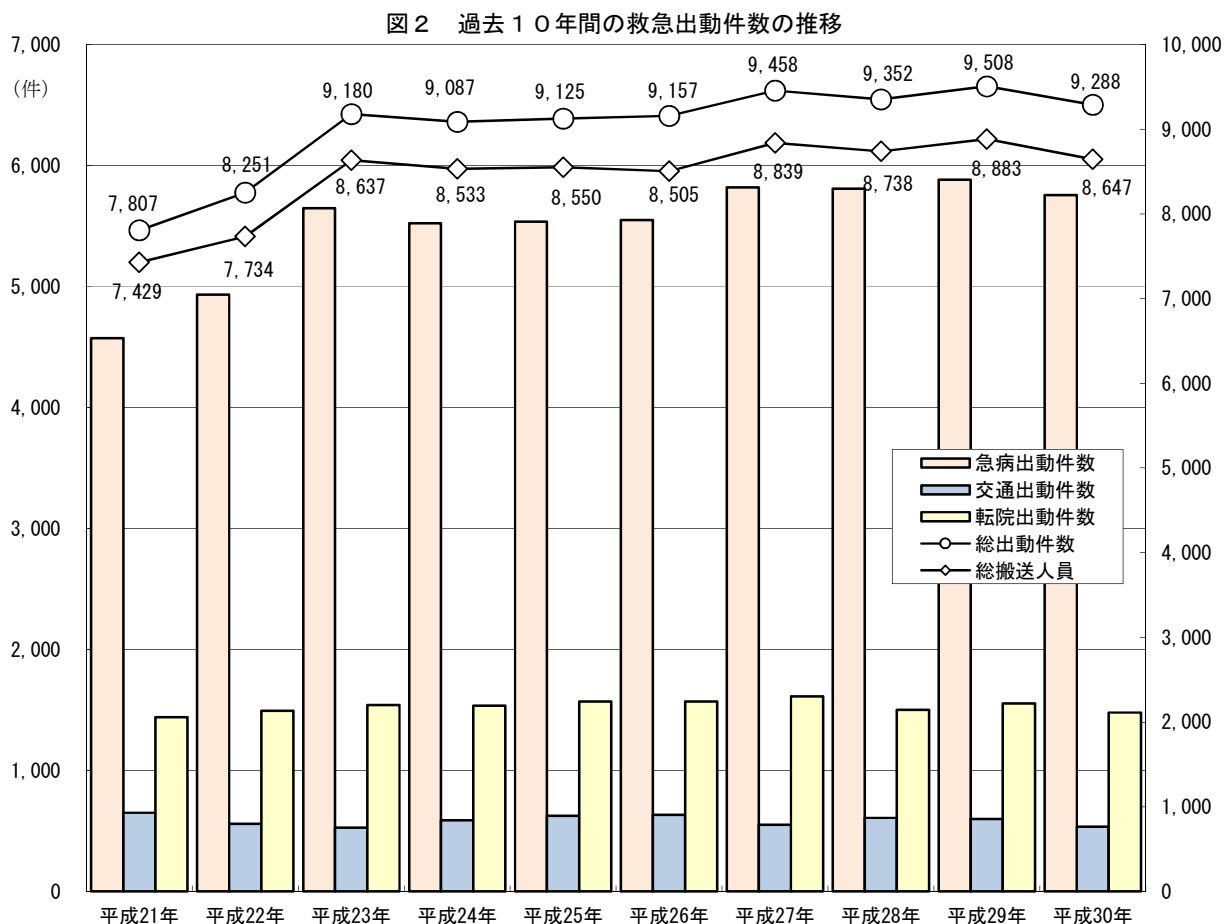


※世帯数・人口は平成30年12月末現在（宮城県住民基本台帳より）

管内 世帯数 76,739 世帯
管内 人口 202,106 人

過去10年間の救急出動件数の推移

過去10年間の救急出動件数は、平成22年から増加し平成23年から8年連続9,000件を超え、平成29年は統計上最も多い出動件数となりましたが、平成30年については減少傾向となりました。（図2）



2 事故種別出動件数及び搬送人員の状況

事故種別ごとの出動件数は、急病が5,756件（前年比128件減）と全出動件数の61.97%を占め、次いで転院搬送の1,479件（前年比75件減）、一般負傷の1,070件（前年比55件増）の順となりました。

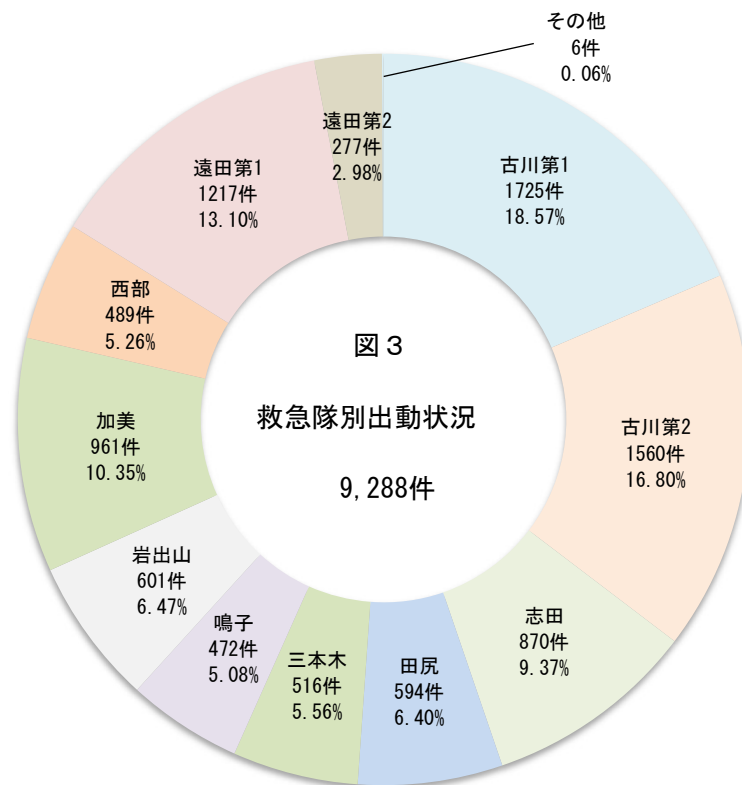
また、搬送人員は、急病5,371人（前年比147人減）、転院搬送1,479人（前年比72人減）、一般負傷1,018人（前年比84人増）の順となりました。（表1・図1）

3 救急隊別出動状況

救急隊別の出動件数を前年比で見ると、古川第1・古川第2・志田・田尻・三本木・鳴子・加美・西部・遠田第2救急隊の出動件数が昨年より減少し、合計で220件減少しました。（表2・図3）

表2 救急隊別出動状況

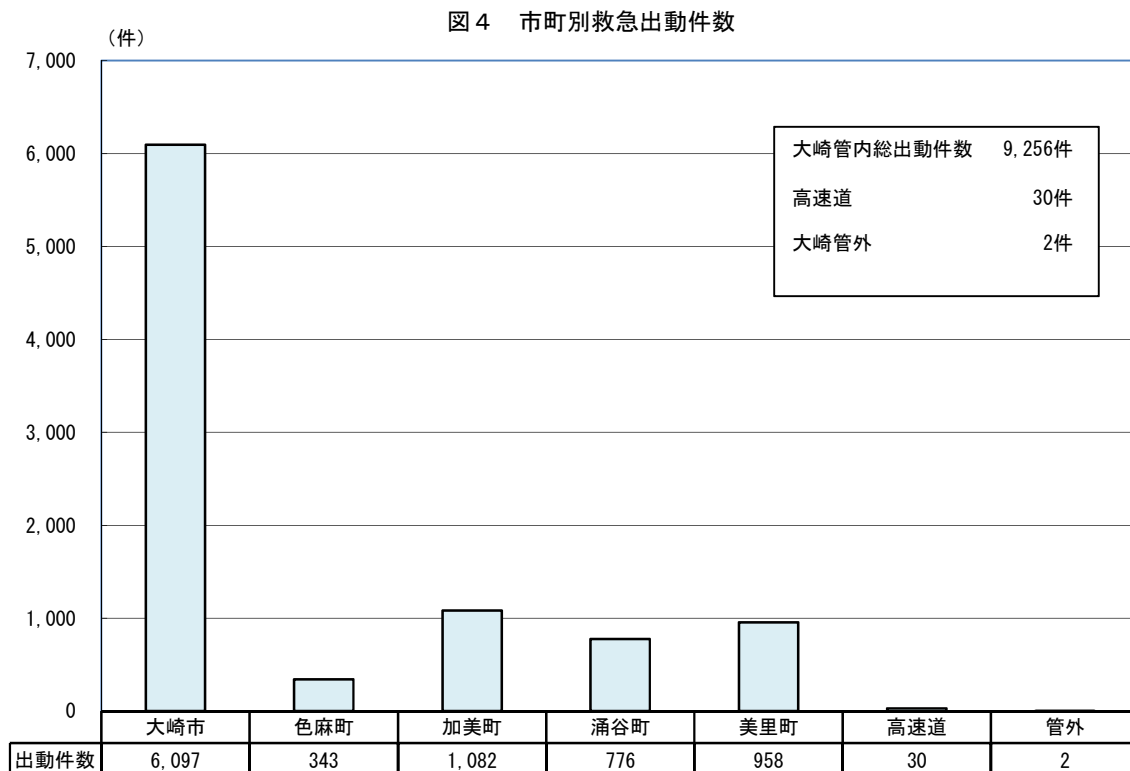
	古川第1	古川第2	志田	田尻	三本木	鳴子	岩出山	加美	西部	遠田第1	遠田第2	その他	合計
平成30年	1,725	1,560	870	594	516	472	601	961	489	1,217	277	6	9,288
平成29年	1,795	1,609	895	598	533	521	588	970	514	1,197	285	3	9,508
比較	-70	-49	-25	-4	-17	-49	13	-9	-25	20	-8	3	-220



4 市町別出動状況

市町ごと（高速道及び管外含む）の出動件数は、大崎市6,097件、色麻町343件、加美町1,082件、涌谷町776件、美里町958件となりました。

また、高速道に30件、管外に2件の出動となりました。（図4）

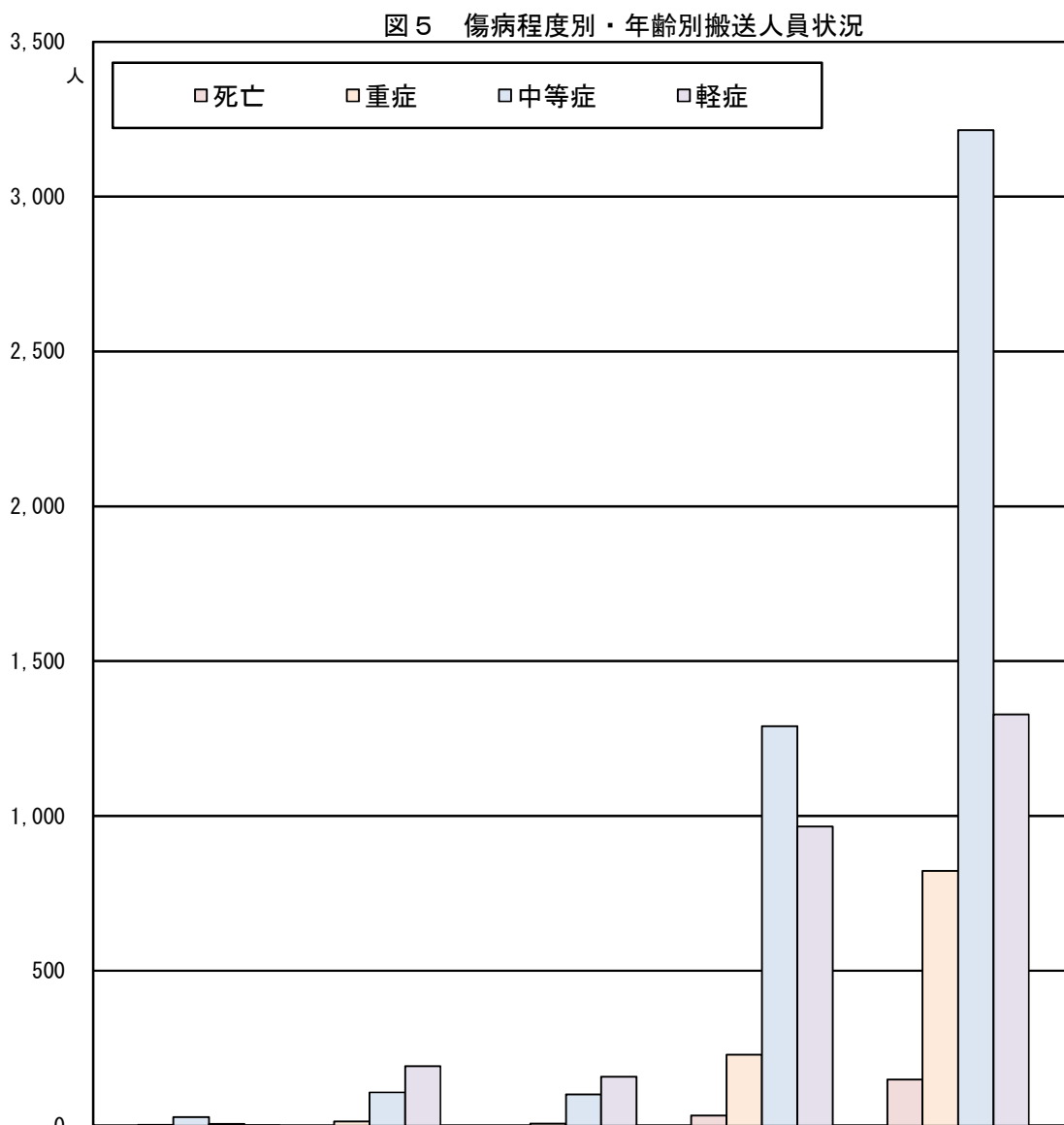


5 傷病程度別、年齢別搬送人員状況

搬送した8,647人の傷病程度は、病院収容後に死亡した人が182人、重症が1,076人、中等症が4,739人、軽症が2,650人となりました。

死亡、重症、中等症の傷病者の割合は全体の約69.4%、入院加療を必要としない軽症傷病者等の割合は30.6%となりました。

また、年齢別では高齢者（65歳以上）が全体の約63.8%を占めました。（図5）



区分	新生児 (生後28日未満)	乳幼児 (28日～6歳)	少年 (7歳～17歳)	成人 (18歳～64歳)	高齢者 (65歳以上)	計
死亡	0	0	0	33	149	182
重症	3	14	7	229	823	1,076
中等症	27	107	101	1,290	3,214	4,739
軽症	6	192	158	966	1,328	2,650
合計	36	313	266	2,518	5,514	8,647

6 月別救急出動状況

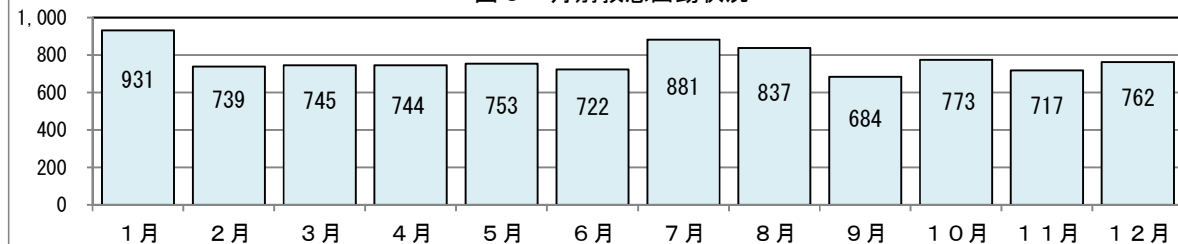
救急隊の1か月の平均出動件数は774件で、最も多い月は1月931件、次いで7月881件となりました。

(表3・図6)

表3 平成30年月別及び事故種別毎出動・搬送等状況

月別	区分	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
													転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他
1月	出動件数	931	7			48	5	2	124	3	11	571	139		5	16
	搬送件数	851				45	5	2	121	3	6	529	139		1	
	搬送人員	857				50	5	2	121	4	6	529	140			
2月	出動件数	739	6			31	3	1	86	1	6	467	128		1	9
	搬送件数	669				27	3	1	81	1	5	423	128			
	搬送人員	672				30	3	1	81	1	5	423	128			
3月	出動件数	745	2			45	5	3	72	3	6	490	107		3	9
	搬送件数	682				38	5	3	71	2	4	450	107		1	1
	搬送人員	691				48	5	3	71	2	4	450	107			1
4月	出動件数	744	8			49	2	4	94	2	10	456	115			4
	搬送件数	681	2			45	2	4	86	2	6	419	115			
	搬送人員	690	3			50	2	5	87	3	6	419	115			
5月	出動件数	753	5			44	4	7	81		4	462	137		2	7
	搬送件数	699				37	4	7	76		4	434	137			
	搬送人員	699				37	4	7	76		4	434	137			
6月	出動件数	722	2		1	26	4	6	76	3	8	441	139		2	14
	搬送件数	662	2			25	4	5	72	2	6	404	139			3
	搬送人員	670	2			31	4	6	72	2	6	404	139			4
7月	出動件数	881	3		2	53	11	14	95	1	7	540	138		5	12
	搬送件数	822	1		1	51	10	14	90		3	514	138			
	搬送人員	831	1		1	56	10	14	92		3	516	138			
8月	出動件数	837	4		1	53	10	8	82	5	8	527	125			14
	搬送件数	775	1			50	10	8	74	3	6	498	125			
	搬送人員	789	1			62	10	8	74	3	6	500	125			
9月	出動件数	684	4			41	4	4	74	1	1	437	107			11
	搬送件数	637				39	4	4	72			411	107			
	搬送人員	646				44	4	4	75			412	107			
10月	出動件数	773	7			52	10	6	100	3	3	457	125		2	8
	搬送件数	719				45	10	6	94	2	3	435	124			
	搬送人員	729				55	10	6	94	2	3	435	124			
11月	出動件数	717	6			41	7	3	99		4	434	108		5	10
	搬送件数	663	1			39	7	3	93		4	408	108			
	搬送人員	669	1			44	7	3	94		4	408	108			
12月	出動件数	762	7			53	5	4	87	5	10	474	111		2	4
	搬送件数	697	1			44	5	4	81	4	6	441	111			
	搬送人員	704	1			51	5	4	81	4	6	441	111			
合計	出動件数	9,288	61	0	4	536	70	62	1,070	27	78	5,756	1,479	0	27	118
	搬送件数	8,557	8	0	1	485	69	61	1,011	19	53	5,366	1,478	0	2	4
	搬送人員	8,647	9	0	1	558	69	63	1,018	21	53	5,371	1,479	0	0	5

図6 月別救急出動状況

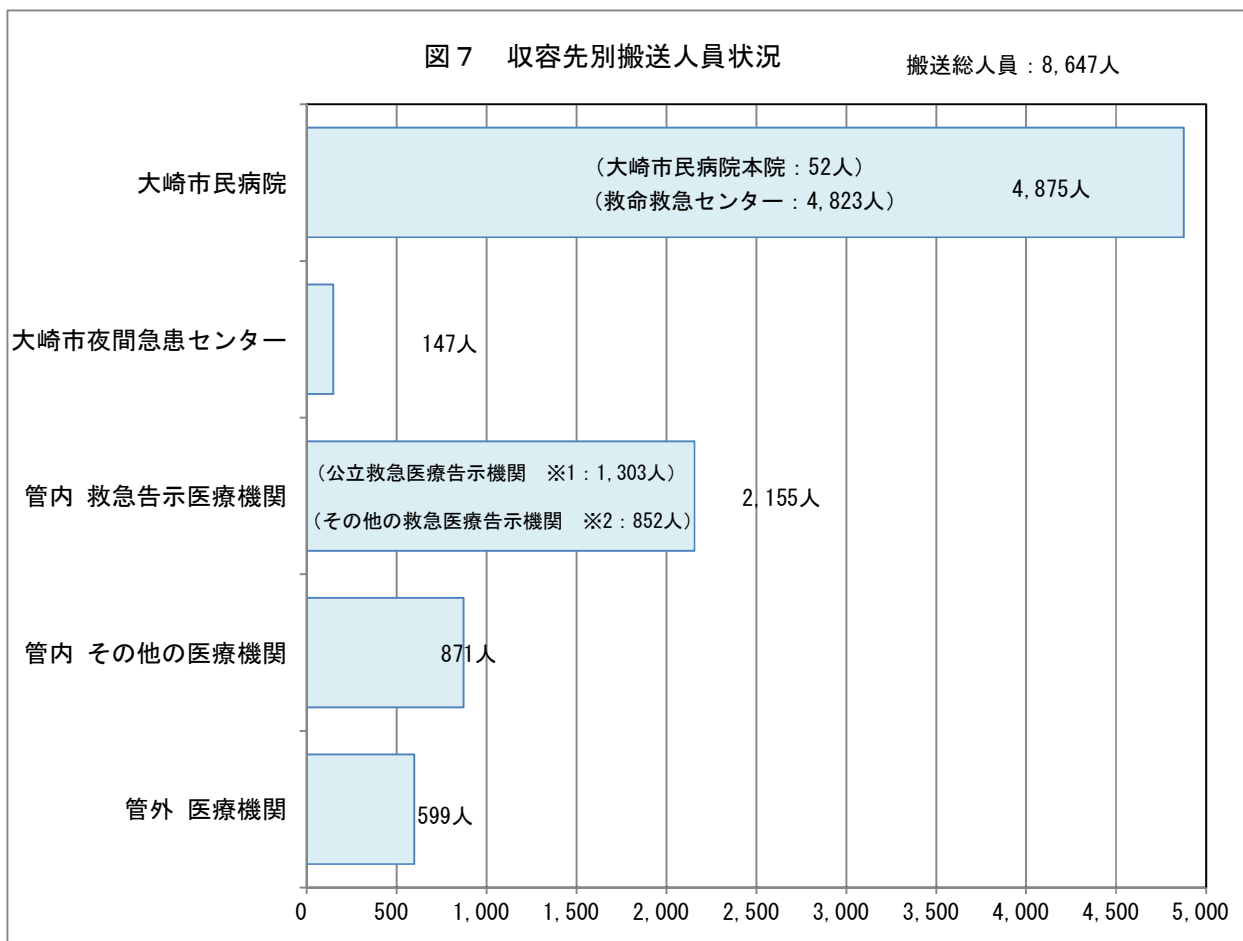


7 収容先別搬送人員状況

平成30年中における収容先搬送人員状況は、大崎市民病院（救命救急センター含む）が最も多い4,875人で、その割合は全搬送人員の56.4%となりました。

また、大崎市夜間急患センターへ搬送された人員は147人でした。

大崎市民病院を除く大崎管内の救急告示医療機関に搬送された人員は2,155人で、そのうち公立の救急告示医療機関に搬送された人員は1,303人でした。（図7）



※1 大崎市民病院鳴子温泉分院、大崎市民病院岩出山分院、大崎市民病院鹿島台分院、涌谷町国民健康保険病院、美里町立南郷病院、公立加美病院

※2 古川民主病院、古川星陵病院、徳永整形外科病院、みやぎ北部循環器科、東泉堂病院
「救急病院等を定める省令」（昭和39年厚生省令第8号）第1条による医療機関 平成29年12月1日現在

8 ドクターヘリ要請件数状況

平成30年中における大崎消防本部のドクターヘリ要請件数は、57件となりました。（表4）

表4 ドクターヘリ要請件数

出動先	大崎市					加美町			色麻町	美里町		涌谷町
	鳴子	岩出山	鹿島台	田尻	松山	中新田	小野田	宮崎		小牛田	南郷	
現場活動	6件	2件	6件	5件	1件	1件	5件	1件	2件	1件	2件	19件
その他	2件	1件	1件	1件	1件							
計	26件					7件			2件	3件		19件

※ その他は要請出動後のキャンセル

9 救急隊員の行った救急処置の状況

平成30年中の搬送人員8,647人のうち、救急隊員が救急処置を行った傷病者は8,646人（搬送人員の99.98%）であり、救急処置件数は40,834件となりました。（表5）

表5 救急隊員の行った救急処置件数

事故種別 傷病程度	応急処置 対象人員 処置	止血	固定	人工呼吸	心マッサージ	うち自動	心肺蘇生	うち自動	酸素吸入	気道確保				保温	被覆	在宅療法継続			S P Pによる 血圧保持	除細動	（C P A前） 静脈路確保	（C P A後） 静脈路確保	薬剤投与	ブドウ糖投与	その他の応急処 置	血圧測定	聴診器による聴 取	血中酸素飽和度 の測定	血糖測定	心電図		計		
										※1	※2	※3	※4			※A	※B	※C												伝送				
										急病	死亡	145	0			0	7	0												145	78		138	145
	重症	643	1	5	11	0	68	30	342	161	6	1	20	3	227	3	16	0	2	14	0	14	22	46	23	2	619	590	373	594	43	586	71	3,746
	中等症	2,899	17	52	3	0	0	0	513	64	1	2	0	0	865	14	37	0	8	29	0	0	29	0	0	13	2,870	2,854	1,261	2,893	68	2,245	183	13,798
	軽症	1,684	30	26	1	0	0	0	78	7	0	0	0	0	463	5	8	0	1	7	0	0	6	0	0	6	1,665	1,597	554	1,679	17	1,032	45	7,174
	計	5,371	48	83	22	-	213	108	1,071	377	8	7	55	3	1,632	23	62	-	11	51	-	20	58	114	51	21	5,263	5,050	2,320	5,182	128	4,000	299	25,738
交通事故	死亡	3	1	3	0	0	3	0	3	3	0	0	0	1	1	0	-	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1	3	1	0	3	0	26
	重症	28	9	21	1	0	5	0	16	8	0	0	1	0	15	6	-	0	0	0	0	0	3	2	2	0	25	24	20	26	0	28	0	211
	中等症	202	28	161	0	0	0	0	18	1	0	0	0	0	62	34	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	194	196	109	199	1	111	3	1,114
	軽症	325	25	190	0	0	0	0	5	-	0	0	0	0	72	44	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	303	317	146	323	0	69	0	1,494
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	計	558	63	375	1	-	8	-	42	12	-	-	1	1	150	84	-	-	-	-	-	-	3	3	3	-	524	538	278	549	1	211	3	2,845
一般負傷	死亡	17	0	0	2	0	17	10	17	17	0	5	2	2	8	0	-	0	0	0	0	0	0	6	1	0	14	0	17	0	0	16	0	115
	重症	63	5	32	1	0	5	2	15	12	0	1	1	0	19	7	-	0	0	0	0	0	2	5	3	0	63	58	28	57	0	37	1	349
	中等症	501	63	171	0	0	1	1	31	5	0	6	1	0	129	64	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	490	489	158	499	1	203	0	2,307
	軽症	436	107	80	0	0	0	0	5	-	0	0	0	0	86	99	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	419	392	116	430	0	107	0	1,842
	計	1,017	175	283	3	-	23	13	68	34	-	12	4	2	242	170	2	-	-	2	-	-	2	12	5	-	986	939	319	986	1	363	1	4,613
その他	死亡	17	0	3	0	0	17	6	17	17	0	0	2	0	9	0	-	0	0	0	0	2	0	7	2	0	13	1	15	2	0	15	0	120
	重症	342	0	15	4	0	3	2	134	18	1	1	1	0	148	3	1	0	1	0	0	2	1	0	0	0	330	333	113	339	1	228	28	1,673
	中等症	1,137	15	73	0	0	0	0	249	8	0	0	0	0	412	20	-	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1,097	1,097	294	1,128	0	608	45	5,002
	軽症	204	15	22	0	0	0	0	18	1	0	0	0	0	63	9	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	194	194	41	201	0	85	8	843
	計	1,700	30	113	4	-	20	8	418	44	1	1	3	-	632	32	1	-	1	-	-	2	3	8	2	-	1,634	1,625	463	1,670	1	936	81	7,638
合計	死亡	182	1	6	9	-	182	94	175	182	1	9	39	3	95	1	1	-	-	1	-	8	1	82	32	-	138	11	167	19	-	171	-	1,281
	重症	1,076	15	73	17	-	81	34	507	199	7	3	23	3	409	19	17	-	3	14	-	14	29	54	28	2	1,037	1,005	534	1,016	44	879	100	5,979
	中等症	4,739	123	457	3	-	1	1	811	78	1	8	1	-	1,468	132	38	-	8	30	-	-	30	1	1	13	4,651	4,636	1,822	4,719	70	3,167	231	22,221
	軽症	2,649	177	318	1	-	-	-	106	8	-	-	-	-	684	157	9	-	1	8	-	-	6	-	-	6	2,581	2,500	857	2,633	17	1,293	53	11,353
	計	8,646	316	854	30	-	264	129	1,599	467	9	20	63	6	2,656	309	65	-	12	53	-	22	66	137	61	21	8,407	8,152	3,380	8,387	131	5,510	384	40,834

気道確保

- ※1 経鼻エアウェイを使用しての気道確保
- ※2 喉頭鏡・マギール鉗子等による異物除去
- ※3 救急救命処置のうち、ラリングアルマスク等を使用
- ※4 気管挿管：気管内チューブによる気道確保

1 在宅療法

- ※A 在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴処置が施されているもの
- ※B 気道切開孔又は気管瘻、人工肛門等の外傷処置が施されているもの
- ※C ※A、※B以外の処置が施されているもの

2 計欄については、止血から心電図までの集計である

10 PA連携出動状況

PA連携とは、消防ポンプ自動車（Pumper）が、救急要請内容により出動し、救急車（Ambulance）の活動を支援する連携活動のことで、双方の頭文字から「PA」と名前をつけたものです。

当消防本部では、平成18年2月1日から心肺機能停止傷病者等に、いち早く応急処置を行うため、直近のポンプ車が救急車より先に到着すると判断した場合、ポンプ車隊を出動させ、救急活動を支援する連携活動を行っています。（図8～10）

図8 PA連携署所別ポンプ車出動状況

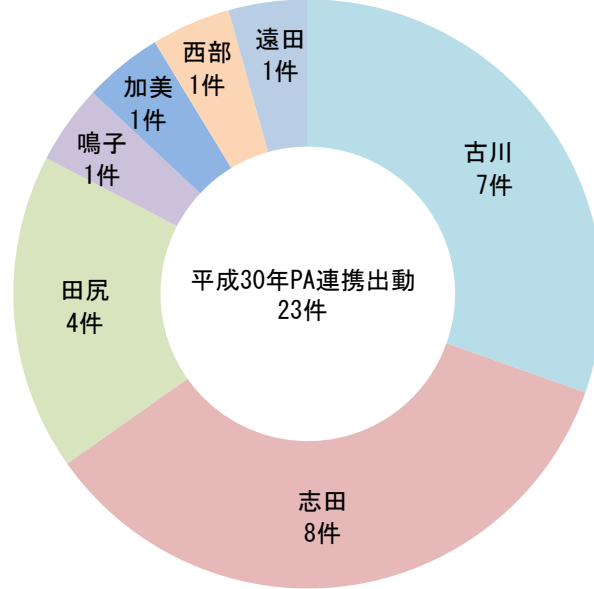


図9 PA連携事故種別

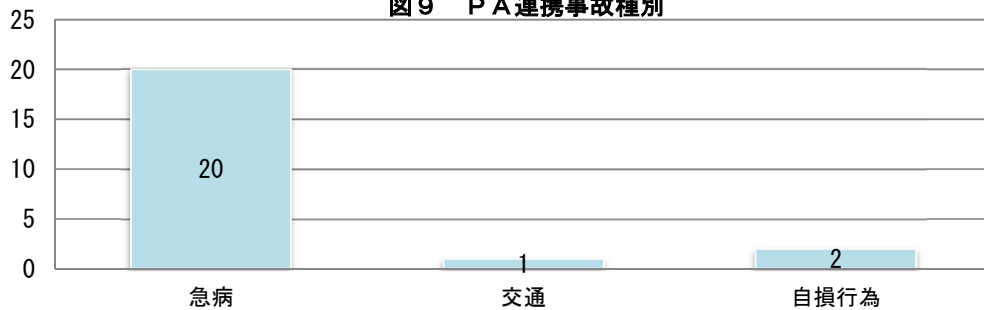
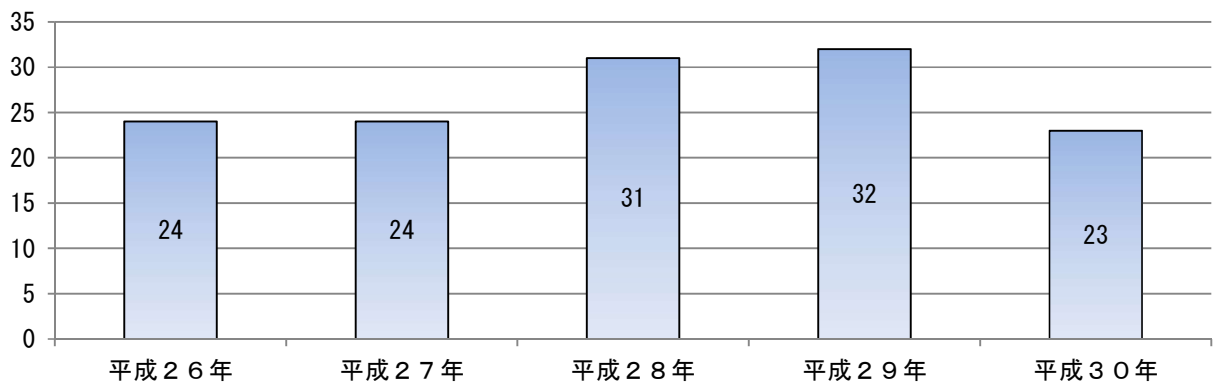


図10 過去5年間のPA連携出動件数



第3章 応急手当講習会等の概要

1 講習会の開催状況

平成30年中における応急手当講習会等実施状況は、地域住民、学校、事業所等を対象として普通救命講習会（講習時間3時間）は150回2,951人、上級救命講習会（講習時間8時間）は7回141人、普及員講習会（講習時間24時間）は2回13人、平成24年から小学生（高学年）を対象に開催している救命入門コースは9回243人が受講しました。

それぞれの救命講習の受講者には「普通救命講習修了証」「上級救命講習修了証」「応急手当普及員認定証」「救命入門コース認定書」を交付しています。

また、簡単な応急手当を学べる「応急手当講習会」を192回開催し、5,037人が受講しました。（表1）

表1 講習会別受講人員

種 別	開催回数	受講人員	内 容
普通救命講習会	150回	2,951人	心肺蘇生法（成人）・大出血時の止血等の講習（講習時間3時間）
上級救命講習会	7回	141人	心肺蘇生法（成人・小児・乳児）・大出血時の止血・傷病者管理・外傷手当・搬送法等の講習（講習時間8時間）
普及員講習会	2回	13人	事業所・地域団体等の従業員に対して、普通救命講習を指導できるための講習（講習時間24時間）
救命入門コース	9回	243人	対象者を小学生中高学年以上（概ね10歳以上）とし、カリキュラムは胸骨圧迫とAEDの使用法
応急手当講習会	192回	5,037人	病気・ケガ・事故等の時、医師の治療を受けるまでの簡単な応急手当の講習
合 計	360回	8,385人	

2 性別・年齢別受講者の状況

受講者の年齢構成は、10歳代が最も多く、次いで60歳代、40歳代の順となっています。

性別構成は、男性と女性の割合がほぼ同じとなっており、男女共に中高生の普通救命講習の参加者が多い結果となりました。（表2）

表2 講習会別・性別・年齢別受講人員

種別	年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	合計
	性別									
普通救命講習会	男	810	103	103	153	106	116	48	6	1,445
	女	654	103	148	170	182	204	43	2	1,506
	合計	1,464	206	251	323	288	320	91	8	2,951
上級救命講習会	男	19	1	7	6	4	8	2	0	47
	女	56	5	5	7	6	13	2	0	94
	合計	75	6	12	13	10	21	4	0	141
普及員講習会	男	0	1	0	0	1	0	0	0	2
	女	0	2	5	3	1	0	0	0	11
	合計	0	3	5	3	2	0	0	0	13
救命入門コース	男	125	/	/	/	/	/	/	/	125
	女	118	/	/	/	/	/	/	/	118
	合計	243	0	0	0	0	0	0	0	243
総合計		1,782	215	268	339	300	341	95	8	3,348

3 講習会開催の推移

平成9年から開催してきた各種救命講習会の総受講者数は、平成30年までの22年間で69,856人となりました。(表3)

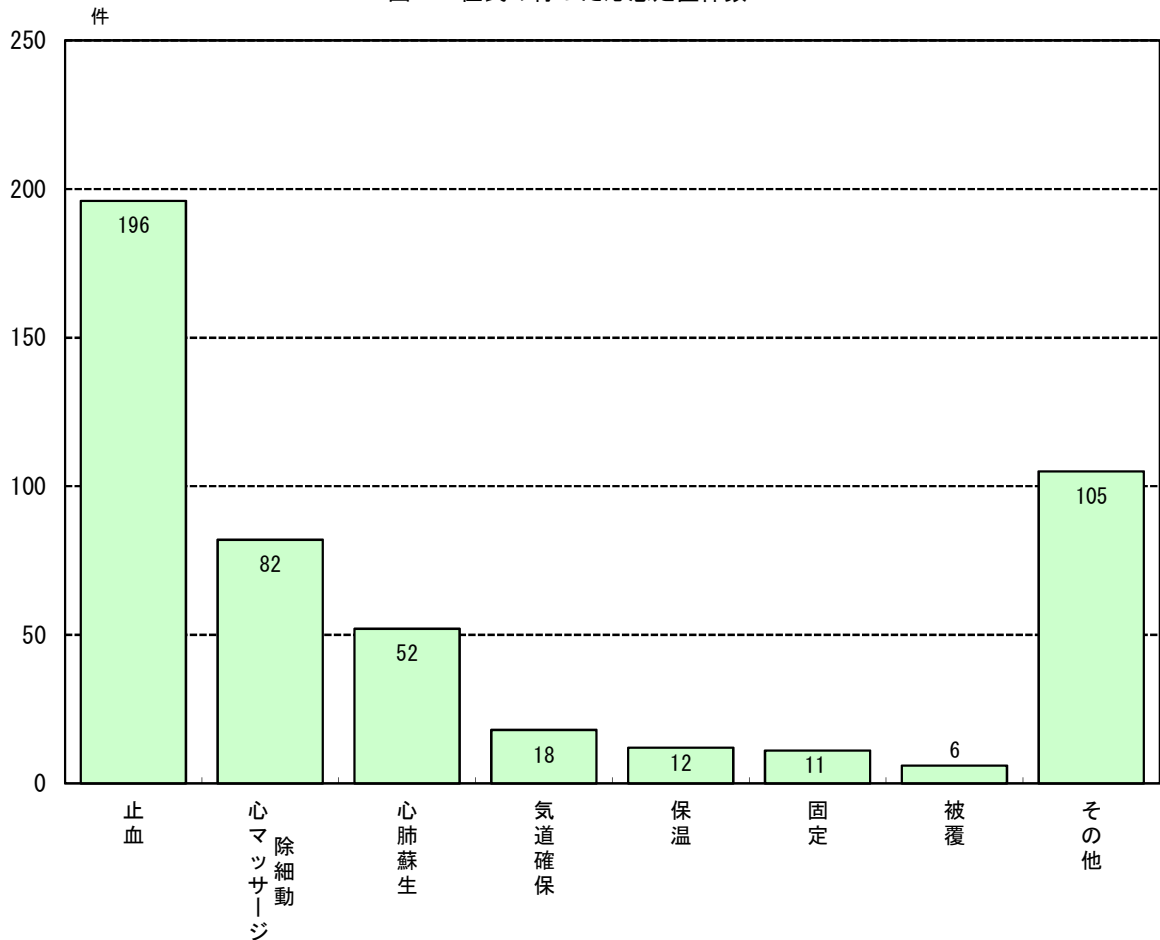
表3 講習会別開催回数・受講人員(平成9年～平成30年)

種別	年別	回数	性別		合計
			男性	女性	
普通救命講習会	平成9年 ～平成19年	1,259	13,362	15,040	28,402
	平成20年	192	2,021	1,943	3,964
	平成21年	176	1,720	1,785	3,505
	平成22年	165	1,728	1,605	3,333
	平成23年	133	1,257	1,026	2,283
	平成24年	152	1,455	1,508	2,963
	平成25年	194	2,034	1,965	3,999
	平成26年	172	1,753	1,772	3,525
	平成27年	173	1,556	1,664	3,220
	平成28年	146	1,380	1,270	2,650
	平成29年	185	1,978	1,632	3,610
	平成30年	150	1,445	1,506	2,951
小計		3,097	31,689	32,716	64,405
上級救命講習会	平成11年 ～平成19年	50	517	1,097	1,614
	平成20年	5	59	112	171
	平成21年	8	87	185	272
	平成22年	7	68	132	200
	平成23年	8	97	82	179
	平成24年	7	54	123	177
	平成25年	5	77	64	141
	平成26年	6	47	100	147
	平成27年	7	56	96	152
	平成28年	8	88	113	201
	平成29年	6	76	92	168
	平成30年	7	47	94	141
小計		124	1,273	2,290	3,563
普及員講習会	平成12年 ～平成19年	10	110	175	285
	平成20年	1	10	13	23
	平成21年	1	9	8	17
	平成22年	2	7	16	23
	平成23年	1	3	3	6
	平成24年	3	8	10	18
	平成25年	1	3	3	6
	平成26年	1	3	6	9
	平成27年	2	17	2	19
	平成28年	1	5	2	7
	平成29年	1	6	2	8
	平成30年	2	2	11	13
小計		26	183	251	434
救命入門コー ス	平成24年	1	64	71	135
	平成25年	3	52	66	118
	平成26年	8	120	143	263
	平成27年	6	125	113	238
	平成28年	9	147	170	317
	平成29年	11	206	177	383
	平成30年	9	125	118	243
小計		47	839	858	1,454
合計		3,294	33,984	36,115	69,856

4 講習会の効果

応急手当講習会等の効果として、救急隊が傷病者のもとへ到着するまでに家族や友人、さらには傷病者の近くにいた住民等による応急手当が482件実施されました。（図1）

図1 住民の行った応急処置件数



また、救急隊が搬送した264人の心肺機能停止傷病者に対して、住民により心肺蘇生法（心マッサージ・人工呼吸どちらかも含む）が実施された傷病者は125人（47.3%）で、そのうち救急隊が傷病者を医師に引き継いだ時点で4人（3.2%）の方が心拍又は呼吸が再開しました。

第4章 救助統計

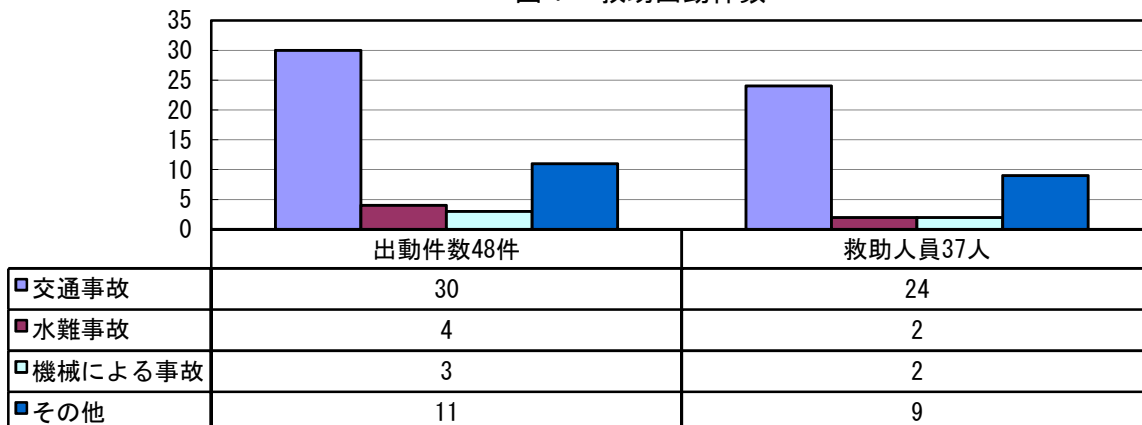
1 大崎管内における救助概要

救助出動件数

平成30年中における救助出動件数は48件、救助人員は37人となっています。

また、事故種別ごとでは、交通事故が30件と出動件数全体の62.5%を占めています。(図1)

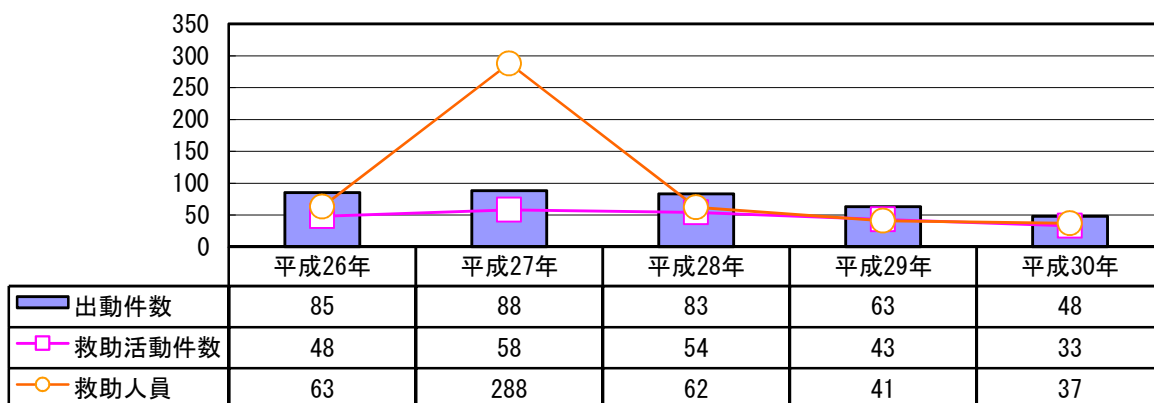
図1 救助出動件数



過去5年間における救助出動状況

平成30年中における救助出動件数は48件で前年より15件減少、また、過去5年間で最も少ない発生件数となっています。(図2)

図2 過去5年間における救助出動状況



救助事案発生場所

発生場所については、その他の道路が21件、次いで、その他の屋外が18件となっています。(図3)

図3 救助事案発生場所

